



50周年スローガン

下和泉小だより 5月号

令和5年4月28日

未来へ向かって 絆をつなごう ～笑顔満開 下和泉～



横浜市立下和泉小学校

校長 船木 淳

「先生！ 1年生を迎える会のことなんですけど、いいですか？」

まだ新年度が始まる前の4月6日、翌日に控えた入学式の準備のために登校した新6年生が、全ての準備が終わった後、担当の教員を見つけて話しかけました。その日の新6年生の、気持ちのよい心のこもった活動は、令和5年度が充実した1年になることを予感させ嬉しく思っていたところで、この発言の場面に出会いました。予感が確信に変わったのは言うまでもありません。「充実」には、これから起こるであろういくつかの課題と、それに関わる全ての人の成長も含まれています。

昨年度末から新年度にかけて、チャット GPT と言われるいわゆる人工知能、生成 AI が話題になりました。複数の大学で（それも日本を代表するような大学で）、卒業式や入学式の式辞にチャット GPT を用いて作成した学長からの祝辞が読まれたからです。もちろん、それぞれの学長は意図的にチャット GPT を使っています。文章を書くのが面倒だから人工知能に書いてもらおう、という訳ではありません。

実際に読まれた式辞は、学長により、様々な解釈がなされていました。「明らかな誤情報が含まれるリスクがある」「定型的な式辞」「指示文を工夫することで回答精度が増した」「もっともらしいけど空虚」など、今後の進化の可能性は認めつつも、現状では使う側が細心の注意を払って利用しないと、発信者の真意は伝わらないのだろうと推察します。

試しに私も使ってみました。「5月の学校だよりの巻頭言を書いて」と指示を送ると、30秒もしないうちに1000文字くらいの文書が表示されました。「5月は新緑が美しい」こと「母の日がある」こと（だから感謝しましょうということ）、「体育祭や中間試験」があることなどが順序立ててまとめられています。「小学校だから体育祭も試験もない」ことや「保護者向けの文章にしてほしい」ことを伝えると、そのたびに修正され、それなりに学校だよりっぽくなってきました。なるほどこれは驚くべきツールです。学生時代にチャット GPT があれば、間違いなくこれ使って卒論を書いていたでしょう。しかし、気持ちが伝わらないという違和感が残ります。学長たちの解釈の中で最も近い感覚は「もっともらしいけど空虚」です。

「ぼくはまだ恥ずかしくて1年生と上手にかかわれません…」

本校は今年度から教室配置を大きく変更しました。一番の変更は、1年生の教室を6年生が両サイドから挟み、日常的に交流する場面を作ることです。1年生を育てるのは6年生。それ以上に、6年生を育てるのが1年生。毎日の笑顔とふれあいの中で、心の距離が縮まり、子どもたちにしかわからないつながりが生まれています。まだ、絆と言えるほど高尚なものではないかもしれませんが、人間が人間らしく生きている自然な姿です。これは、今の人工知能には理解できないことです。気持ちとか心とか、人間にしかわからないことを伝えることは、チャット GPT にはできません。表情や声のトーン、しぐさや視線などから伝わる非言語の分野は、命ある生き物にしか感じられない大切な感覚です。

「あなたにしかできないこと」があるから、子どもたちはふれあいを通し、成長していきます。「もっともらしいけど空虚」ではない学校生活。冒頭の6年生は、1年生を迎える会の進行を平然とやり遂げました。「まだ恥ずかしい」と言っている子は「だから、ここにいるんです」と、登校時の自主的な挨拶運動に取り組んでいます。

西暦2045年頃、人工知能の性能が人間の知能を超える日が来ると言われています。あと20年です。20年後の未来、目の前の子どもたちは20代後半から30代前半。「自分にしかできないこと」を見つけているであろう下小の卒業生が、自分らしく、それぞれの人生を生きていることを願います。



朝の交流